

令和元年10月10日

愛知県上海産業情報センター

林 秀 幸

一般調査報告書

中国で利用が広がるシェアモバイルバッテリー

スマートフォン（以下、スマホ）の普及とその用途の拡大につれて、スマホのバッテリーの消費は年々激しくなっています。日本では、外出先などで思いがけずバッテリーの残量がなくなってしまった場合には、自前の携帯用のモバイルバッテリーを使用するか、公共の充電スポットを利用することで急場をしのぐというのが一般的なところでしょうか。一方、中国の都市部では、そうした場面で使えるシェアモバイルバッテリーの使用が広く普及しており、いざというとき非常に重宝する存在です。最近では日本の首都圏のコンビニなどでも運用が始まっているようですが、中国では既にごく一般的な充電スタイルの一つとして定着していますので、ご紹介いたします。

シェアモバイルバッテリー（充電宝(チョンディエンバオ)）

シェアモバイルバッテリーは、文字通り携帯用のバッテリーをシェアして使うというものです。シェア自転車やシェア自動車のように公共の場所に設置され、利用者はそれを持ち出して使用します。使用後は返却しますが、返却先は必ずしも元の場所である必要はなく、同じ系列会社の貸し出し機のあるところであればどこにでも返すことができます。

使い方は簡単ですが、使用する際にはスマホ決済のできるAlipay（支付宝、アリペイ）かWeChat Pay（微信支付、ウィーチャットペイ）との紐付けが必要です。例えば外出先でモバイルバッテリーが必要になったら、アリペイの検索欄に「充電宝」と入力すると、そのエリアで運営されている充電宝の運営会社のアイコンがいくつか表示されます。そこから適当なブランドのアイコンを選択すると、今度は地図画面が表示され、いま自分のいる附近のどこに何台の使用可能なモバイルバッテリーがあるのかが表示されます。この表示は日本でもすでに運用されているウーバー（Uber）の配車アプリの表示で附近の空車が地図上に表示される感覚と似ています。



モバイルバッテリー貸し出し機「充電宝」



地図画面での設置状況の表示

充電宝は公共の場所といっても、不特定多数の人が出入りする場所には大抵置いてあります。空港や駅はもちろん、カフェやレストラン、ジムや売店、ホテル、映画館などなど、基本的に同じブランドの充電宝であれば、どこで借りてどこで返しても自由ですので、とにかく街のありとあらゆる場所に充電宝が設置されています。



レストランのレジ脇



映画館の待合スペース



カフェのカウンター

利用料金はブランドや地域にもよりますが、概ね1時間で1～2元程度です。外出先では1～2時間の充電ができれば当座はしのげますので、2時間充電しても4元（日本円で60～70円）ほどで済みます。（ただし、初回は別途デポジットが必要です）

実際の利用手順としては、前述の手順でウィーチャットペイやアリペイの中に表示される充電宝のミニプログラムを起動させ、本人認証の二重確認をクリアすると支払い機能と連動して充電宝が使えるようになります。

基本の設定が済んだら、店舗等に設置されている充電宝にあるQRコードをスキャンして貸し出しを実行すると、充電宝のボックスに入っているモバイル

バッテリーが1つ飛び出します。

モバイルバッテリーには大抵3種類の接続コードがついており、iphone始め各社のスマホ端末に対応しています。使用する時はコードをスマホに接続し、モバイルバッテリーにある電源ボタンを入れると充電が開始されます。

このビジネスモデルは、シェア自転車と同様に数が物を言うビジネスです。市場にどれだけの貸し出し機を設置できるかが利用者の獲得に直結します。シェアモバイルバッテリーのブランド各社が競って充電宝の貸し出し機を設置した結果、充電宝は街中の至る所に見られるようになりました。ただ、利用者側としては、統一されたブランドの貸し出し機が増えるほうが利便性は高く感じられますので、現在複数社あるブランドもいずれは市場に淘汰され、最終的には1、2社のブランドに絞られていくのではないかと推測されます。

また、このシェアシステムの一つの課題としては、駅やホテルのように常に多くの人が入り出る場所では、貸し出しと返却のバランスが保たれ、貸し出し機には常時何台かの在庫が待機している状態になっていますが、小さな売店のような所では、貸し出しに比べて返却が少なく、いつも貸し出し機が空になっているといったところも少なくありません。

これはシェア自転車でも同様の問題がありましたが、貸し出し場所と返却場所の偏りをどう平準化するのかといった問題は、この種のビジネスモデルの一つの課題でもあるようです。

いずれにしても、充電宝は人々が必要とする、まさに痒いところに手の届くビジネスとして、この先も社会に広がっていくのではないかと思います。さらなる拡大の見込まれるシェアモバイルバッテリー市場の動向について、今後とも注視していきたいと思えます。

上海産業情報センターでは、今後も中国の現地情報を提供して参ります。

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。

上海産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力していますが、その正確性を保証するものではありません。本情報の採否は読者の判断で行ってください。また、万一不利益を被る事態が生じても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。